

小学校

平成 12 年 度

# 教育研究員研究報告書

総合的な  
学習の時間

東京都教育委員会

平成12年度

### 教育研究員名簿

地 区	学 校 名	氏 名
新 宿	戸 塚 第 二 小	広 瀬 由 紀
墨 田	押 上 小	藤 島 寿 晴
大 田	萩 中 小	中 村 富 士 子
杉 並	和 泉 小	下 島 ま さ 子
荒 川	第 一 日 暮 里 小	◎熊 井 英 二 郎
葛 飾	上 千 葉 小	落 合 秀 章
府 中	小 柳 小	白 鳥 聡
町 田	南 第 三 小	田 中 光 晴
小 平	小 平 第 四 小	山 岸 史 子
西 東 京	田 無 小	○本 徳 文 恵

◎世話人 ○副世話人

担 当 教育庁指導部初等教育課指導主事 邑 上 裕 子

# 目 次

## I 研究主題設定の理由

1 研究主題について .....	2
2 副主題について .....	3
3 研究の構想 .....	4

## II 研究の内容

1 基本的な考え方 .....	5
(1) 他の教科等とのかかわり	
(2) 主題・副主題について	
2 実態調査の考察 .....	7
3 主題に迫るための手だて .....	12
4 実践事例 .....	14
・事例1 「からだ・だから・たから」(第3学年)	
・事例2 「未来へ届けよう ぼくたちの学びを」(第5・6学年)	

## III 研究の成果と課題

1 研究の成果 .....	23
2 今後の課題 .....	24

### ＜研究の要約＞

総合的な学習の時間の部会では新学習指導要領の総則からねらいの2つを押さえ、目指す児童像を、「かかわりを大切にする子」「創造的に取り組む子」の2点に絞り、基礎研究、調査研究と並行し、実践研究を進めてきた。その結果、学習過程の中で児童が意欲的になれる場を設定し、課題解決に向けて個に応じた指導を工夫すれば、目指す児童像に近づくことが分かった。特に個に応じた指導として、課題作り、見通し、学び方、振り返り、学習環境の5点を焦点化し具体的な手だてを探り、研究主題に迫っていった。

## 研究主題

### 「かかわりを大切にし 創造的に取り組む 総合的な学習の時間」

～ 個に応じた指導の工夫 ～

#### I 研究主題設定の理由

##### 1 研究主題について

中央教育審議会第一次答申（平成8年7月）及び教育課程審議会答申（平成10年7月）を受けて改訂された新しい学習指導要領（平成10年12月告示）では、総合的な学習の時間が創設された。その取扱いについて、各学校が、地域や学校、児童の実態等に応じて、横断的・総合的な学習や児童の興味・関心等に基づく学習など創意工夫を生かした教育活動を行う時間として位置付け、総則において以下の2点をねらいとして掲げている。

- (1) 自ら課題を見付け、自ら学び、自ら考え、主体的に判断し、よりよく問題を解決する資質や能力を育てること。
- (2) 学び方やものの考え方を身に付け、問題の解決や探究活動に主体的、創造的に取り組む態度を育て、自己の生き方を考えることができるようにすること。

小学校総合的な学習の時間部会は、今年度から発足された新しい部会である。そこで研究の進め方については、総則の取扱いを加味し、本部会の研究員の各学校における特色ある教育活動の実践から、指導法や児童の変容等を分析し考察するという実践研究を中心とした取り組みをしていくこととした。

そこで、研究員の各学校の教育目標及びアンケート調査に基づく児童の実態等を考慮したうえで、総則にある総合的な学習の時間のねらいに立ち返っての検討を積み重ねてきた。その中で、総則に示されている学習活動例の中の4つの横断的・総合的な課題（国際理解、情報、環境、福祉・健康）については、各学校のそれぞれの実態に応じて実践していくこととした。

このような研究の流れを受けて本研究主題の中には、本部会が目指すべき児童の活動の姿として二つある。一つは「かかわりを大切にする」で、もう一つは「創造的に取り組む」である。この二つの活動の姿については、以下のように捉えた。

#### ○「かかわりを大切にする」

児童は、学習活動の過程において身の回りの様々な事象（人・社会・自然）とかかわりながら、新たなことへの気付き、課題発見、探究活動の充実や経験を通しての知識の習得等が図られていく。このような多様な場面で多くの事象と主体的にかかわりを広げていく中で、学習活動の充実を目指していくことを、「かかわりを大切にする」と捉えた。

本研究では、かかわりの中でも特に「人とのかかわり」に焦点を当てた。これは後述する実態調査からも分かるように、児童が互いに伝え合い、認め合うといった児童相互の交流活動や、地域人材、ゲストティーチャー等とのかかわりがまだまだ少ないことから、地域に広

がる総合的な学習の時間においては、まず、人とのかかわりに焦点を当てる必要があると考えたからである。

#### ○「創造的に取り組む」

総合的な学習の時間は、児童が自らの課題を自らの力で解決していく学びの過程を重視している。このような学習過程の積み重ねを通し、児童は、学び方やものの考え方を身に付け、学ぶ楽しさを知ることができる。「創造的に取り組む」態度とは、児童が学ぶ過程で、行きつ戻りつ試行錯誤しながら、自分の学習を振り返りよりよいものにしたいという次への意欲を生み出す態度であると考えられる。次への学習意欲は、次の新たな興味・関心を生み出し、より高い学習意欲の喚起へとつながっていくものである。

以上、二つの目指す児童像から研究主題を設定し、本部会の研究を進めていくこととした。児童は、様々なかかわりの場を通して、自分と他とのかかわりを実感し、地道な試行錯誤する学習から創造的に取り組む態度を身に付け、自らの生活や学習を作り出していく意義を見出す。これらは、今回の教育改革の求めている「生きる力の育成」や、総合的な学習の時間がねらいとする「自己の生き方を考える」ということに結びつくものと考えた。

## 2 副主題について

児童の「かかわりを大切にし、創造的に取り組む」学習活動を計画する上で、既習経験や興味・関心を押さえ、広がりのある柔軟な活動計画を立てることが重要であると共に、そのための支援活動の工夫が大切であると考え、具体的な指導方法という観点から副主題を設定した。

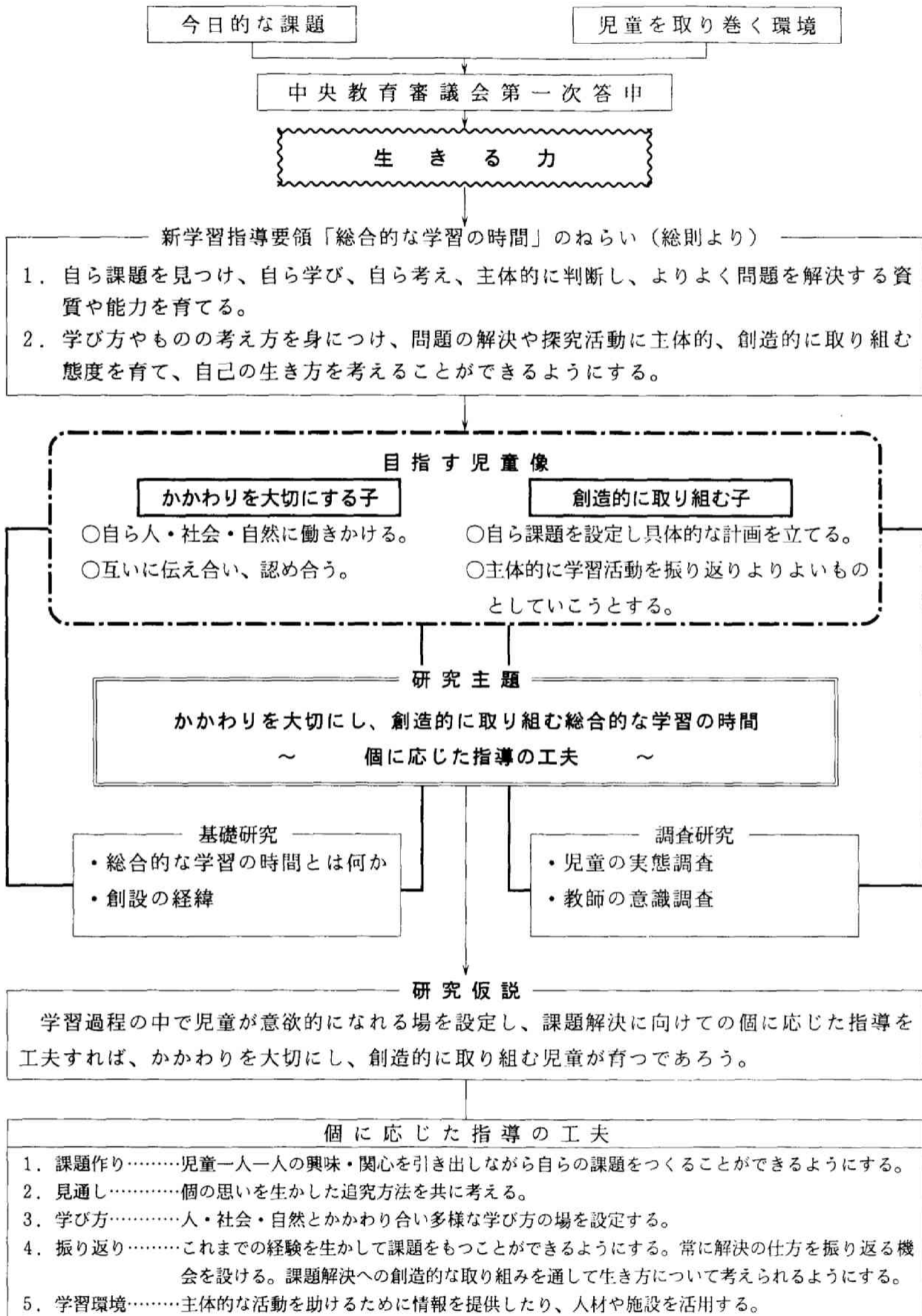
○「個に応じた指導の工夫」ということについては、以下のように捉えた。

- ・児童一人一人の物事に関する興味・関心・意欲を生かす。
- ・児童一人一人の既習の経験・知識・技能を生かす。
- ・児童一人一人の思考力・判断力を生かす。

児童一人一人が興味・関心・意欲を生かしながら、学習に関係する事象へのかかわりを大切にしていくことにより、自らの経験・知識・技能等、個がもつよさの全てをもとにして、今まで培った思考力・判断力を駆使した創造的な取り組みが実現できると考えた。また、本部会では「支援」という考え方も含めて「指導」があると考えている。

以上の「個に応じた指導の工夫」という指導の側面からのアプローチを通して、本研究主題「かかわりを大切にし 創造的に取り組む 総合的な学習の時間」に迫っていきたいと考えた。

### 3 研究の構想



## II 研究の内容

### 1 基本的な考え方

#### (1) 他の教科等との関わり

本部会では総合的な学習の時間を新学習指導要領等にのっとり次のように整理した。

学校教育の 在り方より	自ら学び、自ら考えるなどの、全人的な『生きる力』を育てる。
内 容	教科等の枠を超えて、自分を取り巻く社会（自然・人々）とのかかわりの中で人として21世紀の社会で生きる力を身に付ける。横断的・総合的な学習や、児童の興味・関心に基づく学習などを、地域や学校、児童の実態等に応じ、各学校が創意工夫を生かして実施する。 ・体験学習や問題解決的な学習を、積極的に取り入れる。 ・自ら課題を見付け、主体的に判断し、解決する資質や能力を育てる。 ・グループ学習や異年齢集団での学習、地域を教材にした学習など、人とのかかわり合いを大切にする。
授業時数	第3・第4学年は105単位時間、第5第6学年は110単位時間、年間配当されている。活動内容から、毎週一定時数を割り当てるのではなく、1年間を見通し、弾力的に工夫して運用する。
育てたい力	自分たちの身近な社会を実際に体験するなどして、一人一人が生き方を学んでいく力を身に付ける。 ・実体験から得た知識 ・相手意識を持つコミュニケーション力 ・課題を自分で見付ける力 ・課題を進んで追究しようとする力 ・情報活用力 ・共感する力 ・思いやる力 等々。

これらのことから、総合的な学習の時間と各教科等とのかかわりを以下のようにまとめた。

#### 総合的な学習の時間と特別活動とのかかわり

体験活動を取り入れていくという共通点はあるが、特別活動は独自の目標と内容が示されており、一方総合的な学習の時間は、各学校が創意工夫を生かして目標や内容を定める、とされている。

	特 別 活 動	総合的な学習の時間
内 容	<ul style="list-style-type: none"> <li>・学級や学校の生活上の課題</li> <li>・諸問題の解決・学級内の組織づくり</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・児童が自ら課題を見付け、考え学び、よりよく解決するものを学校が定める</li> </ul>
育む力	問題解決力、生きる力	
	<ul style="list-style-type: none"> <li>・自分たちの生活に直接関わる課題を解決しようとする力</li> <li>・自治的な力</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・自分と社会（自然も含む）との関係に気付き、課題意識をもつ力</li> </ul>
方 法	体験的な活動、問題解決的な活動	
	<ul style="list-style-type: none"> <li>・集団的な活動</li> <li>・目的達成のために、自治的に進める活動</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・様々な活動形式</li> <li>・学校で学ぶ知識と生活とが結びつき自分の学びを構成していく、探究的な活動</li> </ul>

### 総合的な学習の時間と道徳とのかかわり

学習指導要領の道徳の目標には、以下のように書かれている。

道徳教育は学校の活動全体を通じて、道徳的な心情、判断力、実践意欲と態度などの道徳性を養うこととする。各教科、特別活動及び総合的な学習の時間における道徳教育と密接な関連を図りながら、計画的発展的な指導によってこれを補充、深化、統合し、道徳的価値の自覚を深め、道徳的実践力を育成するものである。

今後、ボランティア活動や自然体験的な活動を生かす指導が総合的な学習の時間と関連していくことを視野に入れつつ、それぞれのねらいをきちんと押さえていく必要があると考える。

### 総合的な学習の時間と生活科とのかかわり

生活科は、低学年の発達段階を考慮して設定された教科である。その目標は、自分と身近な人々、自然及び社会とのかかわりを体験を通してとらえさせ、自分自身や自分の生活について考えさせるというものである。そのために、単なる体験だけに終わらせず、認識にまで高めていく必要がある。自分の生活圏の体験活動から、自ら課題を見つけ探究する活動が、知的な活動に高められて総合的な学習の時間につながっていくものとする。

このように、総合的な学習の時間は、自立しつつ他の教科等と互いに関連づけられることが重要であろう。何より、児童の実態に合わせてねらいを達成するために、それぞれの学校で様々な試みができるようになっている点を考慮し、どんな学習活動が展開できるか、各学校で創意工夫をしていきたい。



## 2 実態調査からの考察

### (1) かかわりを通じた活動を設定する必要がある。

核家族化や共働き家庭の増加といった家族形態の変化、家庭用ゲーム機の普及による子どもの遊びの変化、身近な自然の減少などによって、児童が身の回りの人（家族を含む）や自然と直接、話したり触れ合ったりすることが減ってきたと言われている。また、私たちが行った児童の実態に関するアンケート調査の結果（P.8～9参照,以下、児童の実態アンケート）からも、児童の人への関心が低くなり、人とのかかわりの経験を楽しんでいる割合も低くなっていることが裏付けられた。

一方、教職員の意識調査の結果（P.10～11参照,以下、教職員アンケート）によると、総合的な学習の時間で育まれる力として「コミュニケーション能力」の回答が最も多く、社会の中でより良く生きていくための力として、コミュニケーション能力の育成の必要を感じていることが窺える。また、総合的な学習の時間で児童に付けられると予想される力としても、この「コミュニケーション能力」が二番目に多く挙げられ、教職員の総合的な学習の時間への期待が強く感じられる。

以上のような児童の実態と教職員の意識を鑑みて、本研究では、めざす児童の活動の姿のひとつとして「かかわりを大切にする」ことを掲げ、かかわりの中でも特に「ひと」に焦点を当てていきたいと考えた。

### (2) 自ら課題を設定し、創造的に取り組む児童を育てることが大切である。

教職員アンケートによると総合的な学習の時間に期待していることとして、「主体的な活動」「自由な発想」「学習の広がり」という回答が最も多かった。また、総合的な学習の時間で児童に付けられると予想される力として一番多かった回答は「主体的・創造的に取り組む力」であった。児童が主体的に自由な発想で自ら課題を設定し、具体的な計画を立て、広がりのある追究活動を行うことにより「主体性・創造性」が付くのではないかという教職員の願いが読み取れる。

本研究ではこの教職員の願いに、さらによりよいものを目指したり、より高い学習意欲の喚起へと繋がる「主体的な学習活動の振り返り」を付け加えた。そして、この一連の学習過程をもうひとつの目指す児童の活動の姿と捉え、「創造的に取り組む」と位置付けた。

### (3) 「個に応じた指導方法の工夫」が求められる。

教職員アンケートによると、総合的な学習の時間に関して不安なこととして三番目に多く挙げられたのが「個に対する教師の対応」である。教師や児童の自由な発想を期待する一方それが逆に、一人一人の児童の思いにしっかり対応していくことができるだろうかという不安材料にもなっていることが読み取れる。

しかし、個を大切にしていくということは総合的な学習の時間にとって大切なことであり、活動計画を立てたり支援活動を行う段階で必ず配慮すべき項目である。そこで本研究では、この「個に応じた指導の工夫」という教師の指導方法の実践的研究という側面から、主題の「かかわりを大切に創造的に取り組む 総合的な学習の時間」に迫りたいと考えた。

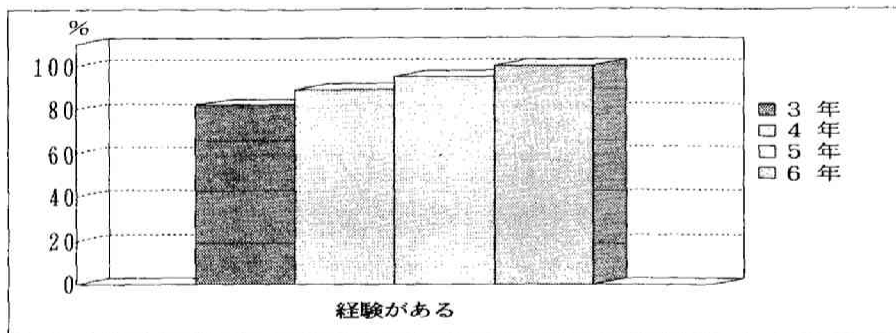
[児童の実態]

調査期間 平成12年7月7日～平成12年7月15日

調査方法 質問紙方式

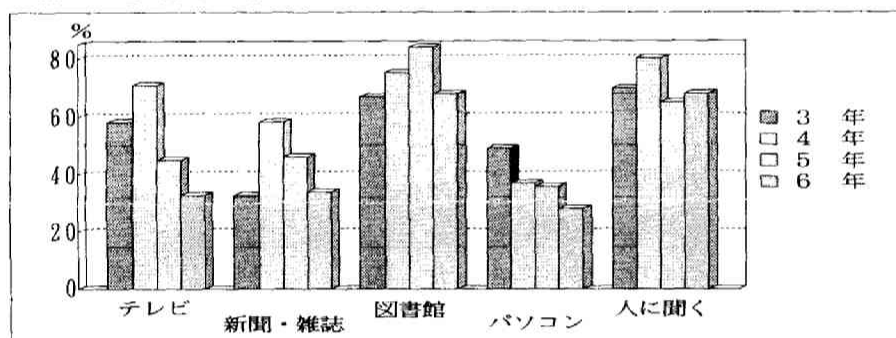
調査対象 都内3～6学年の児童 865名

(1) 総合的学習の時間の実施状況



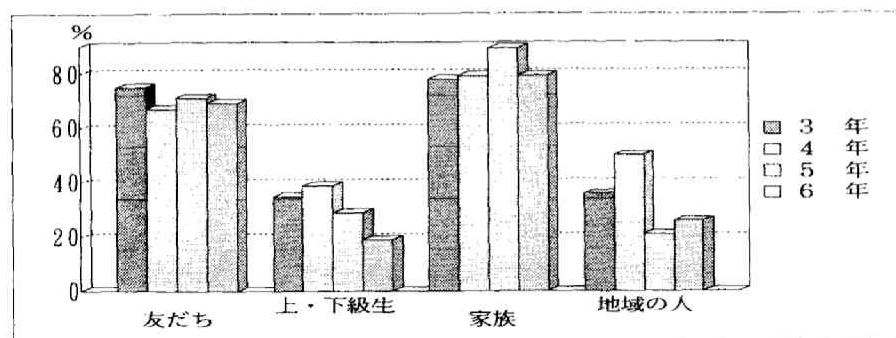
☆高率で実施され、学年が上がるにつれ上昇し、6学年では100%だった。

(2) 「調べる」活動の体験



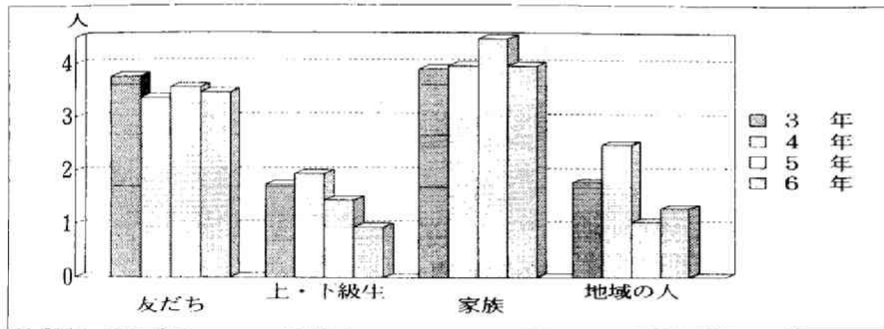
☆各項目ともかなりの率で体験をしている。しかし、「パソコン」以外は活動を楽しんでいる児童が少なかった。殊に「人に聞く」体験は高率にもかかわらず、楽しくは感じていない傾向が顕著だった。同様の特徴は自由記述欄に書かれた内容にも出ていた。「これからしてみたいこと」の問いに対して多く挙げられた回答は「調べたい」「作りたい」「行ってみたい(探検)」「パソコン」等であった。これらの興味・関心はほとんど『もの』に対して向けられている。『ひと』に関連して挙げられた回答で多かったのは「外国人」に関するもの、のみだった。

(3) 先生以外に勉強を教えてもらった体験



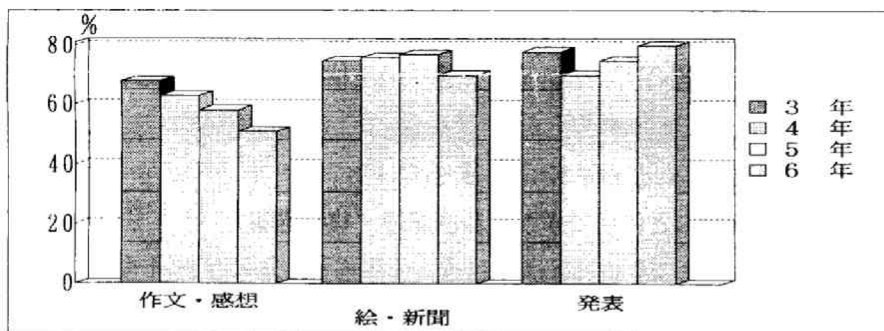
☆友だちや家族など身近な人にかかわって学習をしている。異年齢の児童・生徒、地域の人とのかかわりは少ない。また、どの項目でもかかわりを「楽しい」と回答した児童は少なかった。これは(2)の結果と一致している。

(4) かかわっている人数



☆児童にとって、家族以外で最も多くの人々とかかわる場が学校であることが分かる。一方、地域に出ると友だち関係さえも希薄になっているのが見て取れる。これは(3)の結果と一致している。総合的な学習の時間では「生きる力」の育成が大きく打ち出されているが「生きる力」が人間社会の中で「生きる力」であることは間違いない。子どもたちが「ひと」や「地域・社会」等とどのようにかかわっているかを的確に捉えることは総合的な学習の時間を実施していく上で、欠くことができない課題と考えられる。

(5) 学習のまとめでしたこと



☆学年間に大きな数値の差は無い。ただ、高学年で活動を楽しんでいると感じる児童が減る傾向があった。しかし、児童が「楽しい」と感じればよいのかというと、それは一面的だろう。困難な課題を乗り越える「喜び」「達成感」等々、様々な感想を児童がもつと考える方がより自然である。設問を工夫したならば、違った結果が得られた可能性があった。

◎今回の調査は総合的な学習の時間での活動が、多種多様にわたることが予想されたため、かえって、調査項目を広く一般的に実施されているものに絞らざるを得なかった。しかし、一例を挙げれば、AV機器の技術革新は目覚ましく、学校でのITの利用も日ごとに進んでいる。総合的な学習の時間で個々の児童の特性に応じた指導・支援を行うためには、教科学習で「基礎・基本」を着実に培うとともに、学校内外の学習環境の整備・ネットワーク化を行う等、従来の指導法の発想を越える、一層の工夫の余地と課題があると考えられる。

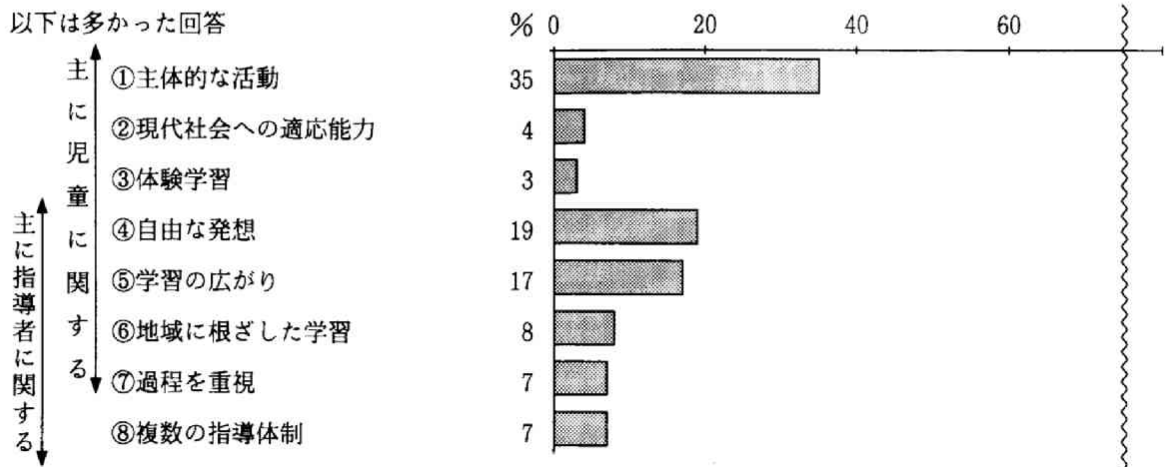
**[教師の意識]**

調査期間 平成12年7月7日～平成12年7月15日

調査方法 質問紙法による・分析は自由記述をキーワードに着目してまとめた

調査対象 研究員所属校及び都内の教職員の教師 125人

**(1) 総合的な学習の時間に期待していることは何ですか（自由記述・複数回答）**

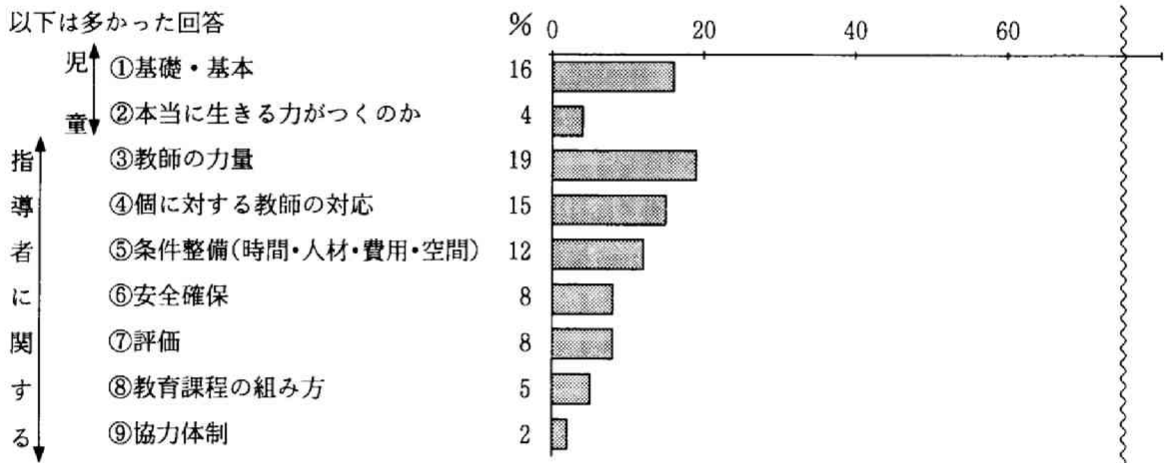


その他の記述・友達とのかかわりの中で教え合うなどの人格形成にプラスになる。

・物事や人とかかわる中で心を動かし、具体的な活動を考え出せる力を育てる。

☆「主体的な活動」「自由な発想」「学習の広がり」と答えた人が多い。教師・児童の自由な発想を生かし、児童の主体的な活動から広がりのある学習が展開されることを期待していることが分かる。総合的な学習の時間の趣旨にある通り、地域や学校、児童の実態に応じて創意工夫を生かして学習活動を行うことができるという期待とその学習の広がり。そして児童の主体的な学びを期待する声が多いことが分かる。

**(2) 総合的な学習の時間に関して不安なことは何ですか（自由記述・複数回答）**

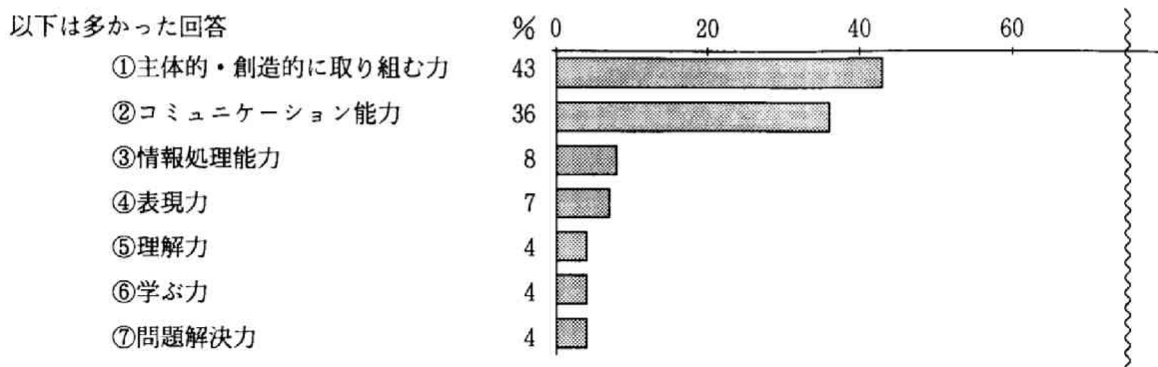


その他の記述・児童の興味関心ではなく、感覚的な好き嫌いや都合などに流されるおそれがある。

・学校の実態を考えずに他校の実践事例をそのまま活用したり、児童の実態を考えずに前年度の活動をそのまま活用したりする恐れがあること。

☆「教師の力量」「基礎・基本」「個に対する教師の対応」についての不安が多い。総合的な学習の時間は創設されたものであり、各学校が地域や学校、児童の実態に応じた学習活動を行うものであるため、教師自身が見通しをもてず不安を抱いている実態がある。また、基礎・基本の上に成り立っている総合的な学習の時間であるが、どのように基礎・基本をとらえ、定着を図っていくかが重要であり、苦心していることが分かる。そして一人一人の思いや願いを大切にしたいがゆえに、個に対応しきれぬのかという不安がある。

(3) 総合的な学習の時間ではどんな力が付けられると考えますか？（自由記述・複数回答）

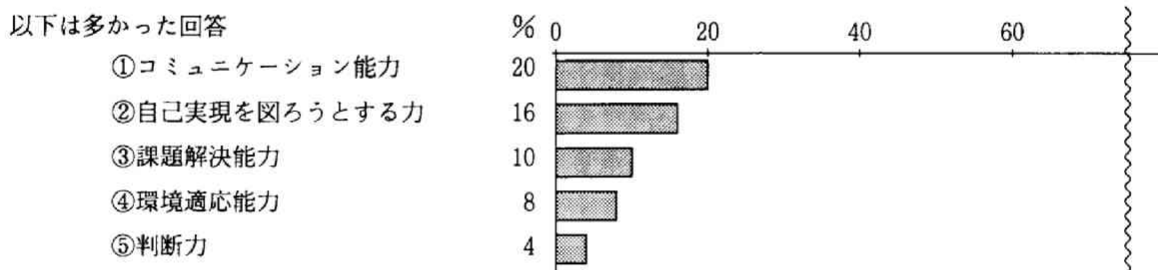


その他の記述・友達の良さを見とる力。

- ・状況判断力。
- ・自分の考えの明確化、分析力。

☆「主体性・創造性」・「コミュニケーション能力」と答えた人が多い。児童が主体的にそして創造的に取り組む力や、多様なかかわりの中からコミュニケーションを上手に図ろうとする力がつけられていくと感じている人が約半数を占めている。つけられる力、逆に考えると総合的な学習の時間でつきたい力の多くは、主体的そして創造的に取り組む力であり、かかわりの中からコミュニケーションを上手に図ろうとする力であると考えられる。

(4) 現在よく言われている「生きる力」とはどのようなものだと思いますか。（自由記述・複数回答）



その他の記述・自分の良さを人のために働かせ、役に立とうとする力。

- ・自ら生活をつくり、生活を楽しみ、他者とかわりながら生きることができる力。

☆「コミュニケーション能力」「自己実現を図ろうとする力」が多い。新しい学習指導要領にある「生きる力」と、現場教師が考える生きる力とは多少のズレがあるように思う。総合的な学習の時間を進めていく上では、まず「生きる力」をはぐくむとはどういうことなのかという基本に立ち返り、教師が意思の統一を図っていく必要があるのではないだろうか。

### 3 主題に迫るための手だて ～個に応じた指導の工夫～

	手 だ て	内 容	例 示
課 題 作 り	学習材 視覚的な資料の活用	学習課題につながる学習材や資料を提供することによって、興味・関心を引き出しながら課題設定を促す。	・見学・実物観察 ・VTR映像 ・写真・パネル 等
	共通体験の活用	共通の体験的な活動を通して、児童の課題づくりに役立てる。	・見学 ・体験活動
	発想を引き出す手法	自由な発想を引き出すために、課題にあった様々な手法を用いる。	・ブレインストーミング ・ワークショップ ・ロールプレイ ・ウェビング ・KJ法 等
	ゆとりある 指導計画の作成	具体的な追究活動を考えさせ、自分のもった課題を修正・発展できるようなゆとりある指導計画を立てる。	

見 通 し	学びの過程が わかるカード作り	学習後に児童が記入する「カード」から、個に応じた支援計画を立て、次時の指導に生かす。	・学習カードの工夫
	発表の場の設定	中間発表会・終末の発表会を学習計画に設定することにより、児童一人一人が自分の学習活動の節目を意識し、積極的に課題に取り組むようにする。	・中間発表会 ・掲示による発表
	活動計画書の立案	児童が課題解決に向けた追究活動のスケジュール・方法等を具体的に計画書に書き込み、活動前に見通しを持たせる。	

#### ワークショップ

ワークショップは、皆で意見交換や共同作業をしながら進める体験的参加型研修である。指導・被指導の関係で学ぶ研修会でなく、参加者が積極的に他者の意見や発想から、“気づき”、“学び合い”最後に皆で自らのふりかえりをするという、研修のプロセスでの学びを大切にする。問題解決を図るとともに態度や技能を身につけられるという特長がある。

#### ブレインストーミング

通常リーダーを含めて5～10名程度の集団が適切で、

- ①出てきたアイデアについては良い悪いの批判はしないこと
- ②アイデアの出し方は自由であればあるほどよいこと
- ③できるだけ多くの量のアイデアを出すこと
- ④自身のアイデアを出すだけでなく、他人の出したアイデアを改良したり、幾つかのアイデアを組み合わせることもある

などが原則である。その後出されたアイデアについては別途に審査を行い、有効なものを選択する。

#### KJ法

各人の考えをカードを使って一枚の図に整理し、全体を見ながら討議する。記入したカードがすべて生かされて、全体図の中で“自己主張”することで、思わぬ発想につながるよさがある。

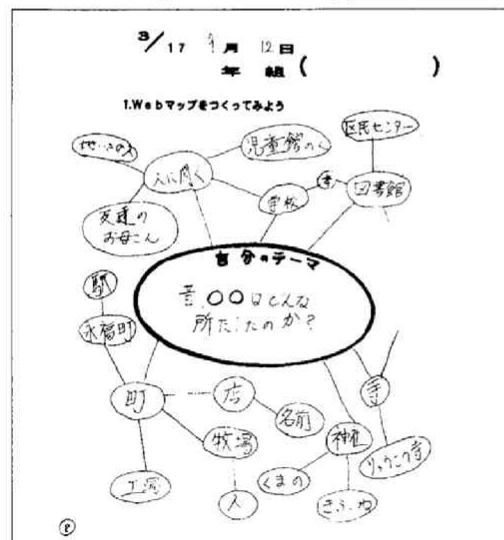


学 び 方	体験活動の重視	調べ活動から実際に体験する活動に移行する 指導計画を立て、課題を広げるようにする。	・〇〇作り ・実験 等
	学び方の手引きの活用	情報収集したり調べたりするときに活用できる よう、施設利用や紹介・電話のかけ方・イ ンタビューの仕方・手紙の書き方など、学習 前のマナーを記した冊子を作成する。	・学び方ハンドブック
	グループ作り	友達の学び方や考え方を自分の課題解決に生かすことができるような 活動のグループを設定する。	

振 り 返 り	情報交換の場の設定	お互いの調べ学習や情報交換の場として掲示 板を利用したり、個々の興味・関心を大切に 意見交換できる機会を設定したりする。	・メールカード ・発表会・中間発表会 ・ポスターセッション ・壁新聞 等
	毎時の振り返り	毎活動終了時、振り返りの時間を確保することで、次の活動や課題を を明らかにさせる。	

学 習 環 境	指導体制の工夫	学年・専科教員によるT、Tの体制や保護者 や地域の方の協力を得た体制を作り、子ども の学習をサポートする。また、地域の関係機 関や施設などの実態や特色を理解し、専門的 な知識や技能を身につけている人をリストアッ プし、指導の協力を得ておく。	・人材マップ ・校内教職員の活用 ・ゲストティーチャー ・TT体制
	物質的環境の整備	子どもたちの活動が効率的に進めていけるよ うに、活動の空間・追究の対象・資料・材料 などを整えることにより、課題追究活動をス ムーズにし、意欲を喚起する。	・図書室 ・パソコンルーム ・施設案内地図 ・材料提供
	学習計画表の作成	子どものもつ課題が解決可能なものかどうか を自分で確認し、解決の見通しをもたせると ともに、教師は計画表を見ながら、支援の方 法を考える。	・追究活動計画表

<ウェビングの例>



<メールカードの例>

メールカード

「のうについて」のことはわたしのお父  
さんにたのんでプリントあげるわ!

メールカード

つだ図書館に3~4さつあるよ。  
どろが!つの本の戸所にあるよ。

#### 4 実践事例

事例1 第3学年 単元名 「からだ・だから・たから」(体だから宝)

##### 1 単元のねらい

- 様々な人とのかかわりの中で、様々な知恵に触れ学び方を体験することで、課題を解決していくことの楽しさを味わわせる。
- 自分の生活・経験を通し、自分の課題を持って追究しようとする態度を育てる。
- 調べたり考えたりしたことを伝え合うことで、自分の生活の中に生かし、健康な生活について考え実践していこうとする態度を養う。

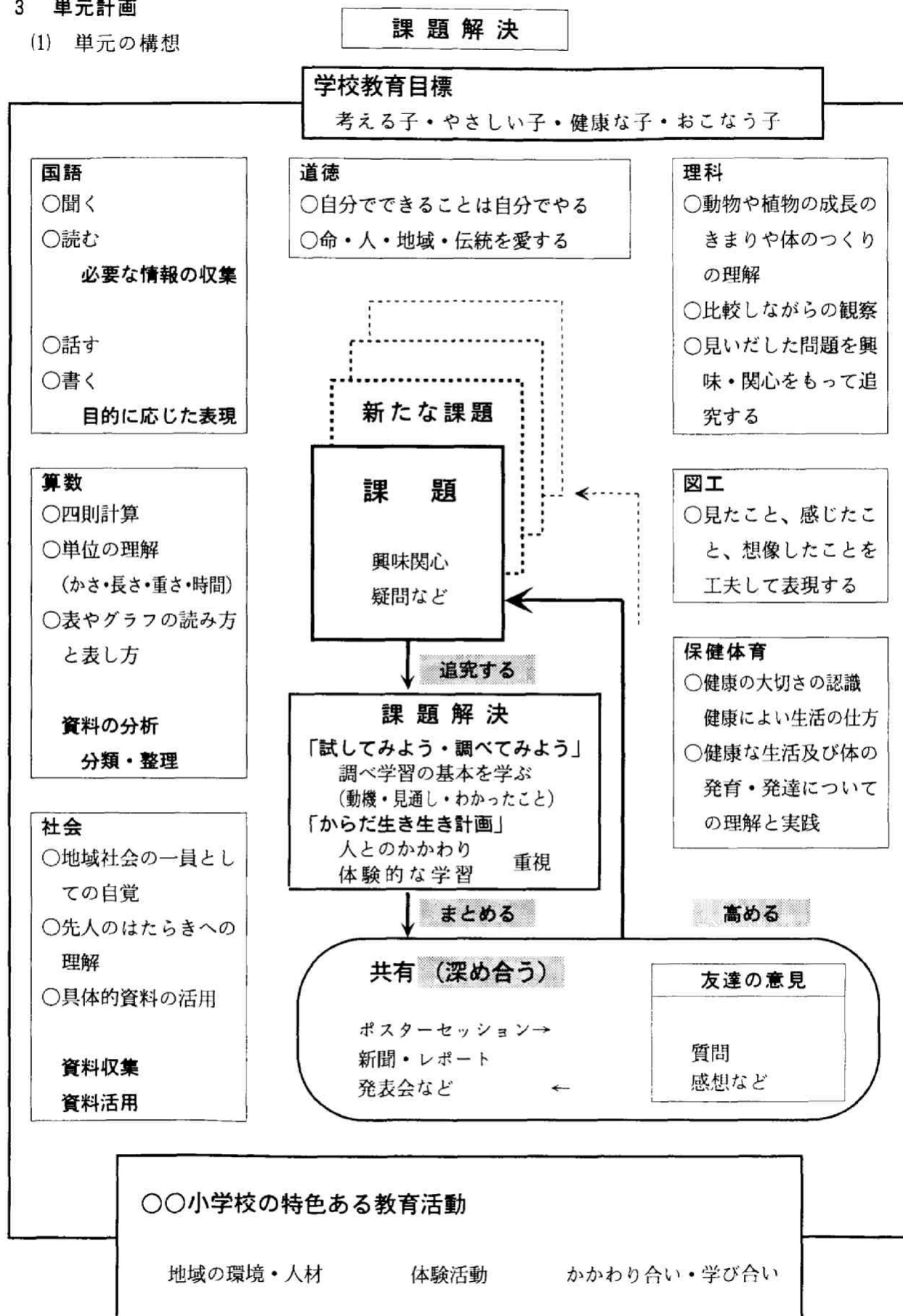
##### 2 指導の工夫

課 題 作 り	<ul style="list-style-type: none"> <li>・きっかけの学習・活動の実施</li> <li>・関連マップの作成 (P.17参照)</li> <li>・課題をたてた動機の明記</li> </ul>
見 通 し	<ul style="list-style-type: none"> <li>・研究カードの活用 (個別の学習計画書)</li> <li>動機→予想→方法(調べ方)→わかったこと→振り返り</li> </ul>
学 び 方	<ul style="list-style-type: none"> <li>・掲示板の活用 (P.17参照)</li> <li>それぞれの学習の様子が分かるよう、学年の廊下掲示板に掲示する。また、メールカードで感想や情報を交換し合う。</li> <li>・方法(調べ方)の例示</li> </ul>
振 り 返 り	<ul style="list-style-type: none"> <li>・研究カードの活用 (P.17参照)</li> <li>・掲示板の活用</li> <li>・個の進み具合に合わせた学習計画</li> <li>課題の数を決めたり、この時間は実験や調べ学習の時間と決めたりするのではなく、それぞれの児童の取り組みやつまづきを考慮する。</li> </ul>
学 習 環 境	<ul style="list-style-type: none"> <li>・課題に合わせた学習グループの編成</li> <li>クラスの枠をなくし、全体で取り組む。</li> <li>・様々な人との交流</li> <li>学校内はもちろんのこと、保護者、地域の方、専門家の方々など、児童の課題に合わせて人に学ぶ機会を作る。</li> </ul>

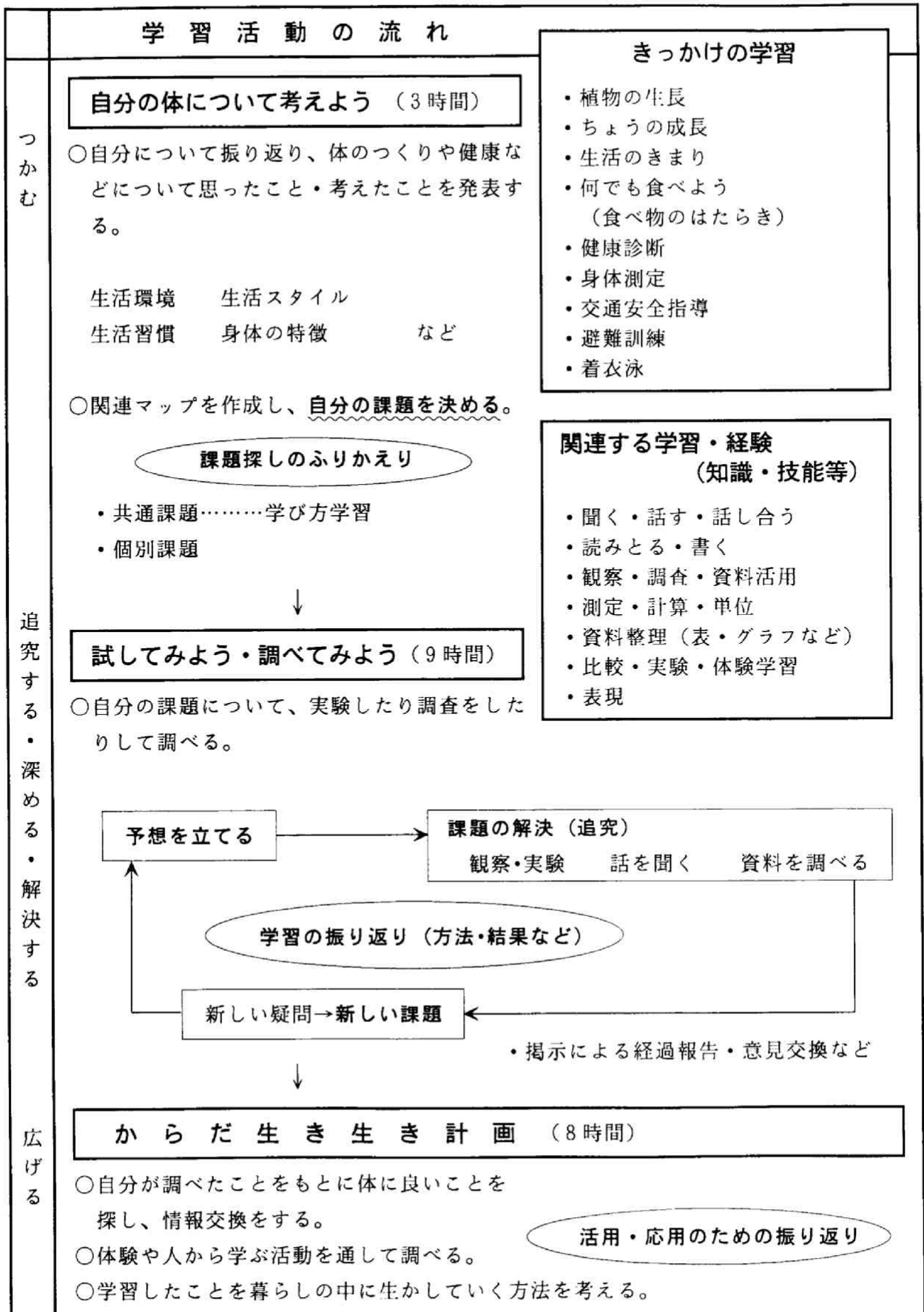


### 3 単元計画

#### (1) 単元の構想



(2) 学習指導計画



#### 4 実践記録

##### きっかけの学習

- ・理科・体育・学級指導などの学習の中で、体や生命を意識させ、興味・関心を持たせる。

##### 掲示による経過発表



研究カードは1課題1枚とし、動機を明らかにさせておく。



研究カードは、いつでも取り出して見られるようクリアファイルとフラットファイルを組み合わせた物に挟み込んで掲示した。本人はもちろんのこと友だちの研究も自由に見られるようになっており、その感想や情報をメールカードに書き貼っておく。

##### からだ大発見フェスティバル

調べたことなどを互いに情報交換し、自分ならば何をどのように生活の中に生かしていくか考えさせる。

☆自分の学びを伝えることを意識することで、調べ方・まとめ方も、聞て手を考えて工夫する姿が見られる

つかむ

追究する

深める

広げる

自分の生活に  
生かしていく

##### 課題づくり

- ・ウェビング図のような関連マップを作り、自分の体に関する疑問などを整理させる。
- ・学習の進め方を説明しながら、オリエンテーションをする。

☆学習への意欲・見通しを持たた。

##### 課題追究 I

「からだの不思議追究」



同じ課題の児童で2～5名ほどのグループを編成し、助け合えるようにする。  
☆よさを学び合うことができる。



##### 課題追究 II

「からだ生き生き計画」

- ・健康に丈夫な体に成長していくために、どんなことに気をつけたら良いか、どんな工夫ができるかを考えさせる。
- ・ゲストティーチャーを招いたり、実際に試してみたりするなどしながら体験的な学習をする。

☆体験や人とのかかわりを通して学習していくと、学習がより具体的になる。  
☆生活習慣に関わることなので、保護者の皆様のご協力が大切だと感じた。

事例2 第5学年・第6学年

1 単元名 「——未来へ届けようぼくたちの学びを——」

stage I 「ファーストチャレンジ」 stage II 「情報ステーション〇〇」

2 単元のねらい

- 人・地域・自然とのかかわりを通し課題解決に向けた自分なりの学び方、考え方を身につける。
- 百科事典を作り直して、今までの生活・学習で経験したことをもとに、自分の課題をつかみ追究しようとする態度を育てる。
- 調べたこと、やってみたことを互いに伝えることによって、自分の生活や環境を見直し生活のなかに生かしていこうとする。

3 指導の工夫

課題作り	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ビデオ、写真等 視覚的な資料の活用</li> <li>・ブレインストーミングの手法</li> <li>・ウェブマップの作成</li> <li>・初めの課題を修正、発展できる学習指導計画</li> </ul>	<p>学習、生活経験から児童の思いを生かした課題、自力で追究活動に取り組ませる。</p>
見通し	<ul style="list-style-type: none"> <li>・活動計画書の活用</li> </ul> <p>追究の日程、場所、方法、中間発表、発表会を意識した計画を立てさせる。</p>	
学び方	<ul style="list-style-type: none"> <li>・学び方ハンドブックの活用（情報収集、調べ方、まとめ方の例示）</li> <li>・活動計画書の活用</li> </ul> <p>一人一人の学習の過程を捉え、個々に応じた支援計画を立てる。人とかかわって体験できるような活動を取り入れ活動を広げる支援をする。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・情報交換、中間発表の場の設定</li> </ul>	
振り返り	<ul style="list-style-type: none"> <li>・活動計画書の活用</li> <li>・振り返りカードの掲示</li> <li>・情報交換、中間発表の場の設定</li> </ul>	<p>自分の考えを整理し、友達の学び方を知り課題追究に生かす。試行錯誤している時の支援に生かす。</p>
学習環境	<ul style="list-style-type: none"> <li>・情報発信の掲示スペース</li> <li>・専門家、地域の方、保護者を含め校内の協力体制を作る。</li> <li>・発表の場を設定する。</li> </ul> <p>保護者、地域の方に理解を求めると共に児童に生き方を考えさせる。</p>	

4 学習指導計画

stage I ファーストチャレンジ

興味・関心をもつ

課題をつかむ

見通しをもつ

追究する

振り返る

自由研究発表

オリエンテーション 未来へとどけようぼくたちの学びを 2

- ◇今までの学習を振り返り、興味のあることにチャレンジしようとする意欲をもつ
- ◇チャレンジしたいことを考え、整理する。自分の課題（仮）を決める。

ふるさと○○      ひと      世界      自分達でできること

自分のチャレンジ計画を立てよう 2

- ◇自分の課題（仮）に合わせて情報を集め、活動計画を立てる。

地域、学校、地域の生き物、地域の歴史等	運動、スポーツ踊り、病気体の不思議等	世界の言葉世界の人と日本の地域等	オイスカに協力手話、料理、物作り等
---------------------	--------------------	------------------	-------------------

ファーストチャレンジしてみよう 3

- ◇詳しい日程や方法を決めて個々の課題に取り組む。

本で調べる。教えてくれる人をさがす。必要なものを用意する。

中間発表 1

- ◇これまでにチャレンジしたことを発表しそれぞれの学び方を知る。

さらにチャレンジしよう 4+課外活動

- ◇課題と計画を振り返り修正し、新たな課題や計画に合わせてチャレンジする。

- ・課題の大きさ、広がり、活動場所、方法、進め方を見直す。
- ・いろいろな学び方をしてみよう・もっと疑問をときあかそう
- ・くわしい資料で調べよう・アンケートをとろう・実際に行ってみよう
- ・インタビューをしよう・くわしい人に聞こう

stage II 情報ステーション○○

学んだことをまとめよう 2

- ◇自分の学びを整理してまとめる。 ◇自分に合った発表の方法を考える。

学んだことをみんなに届けよう 発表会 2

- ◇発表会をする。

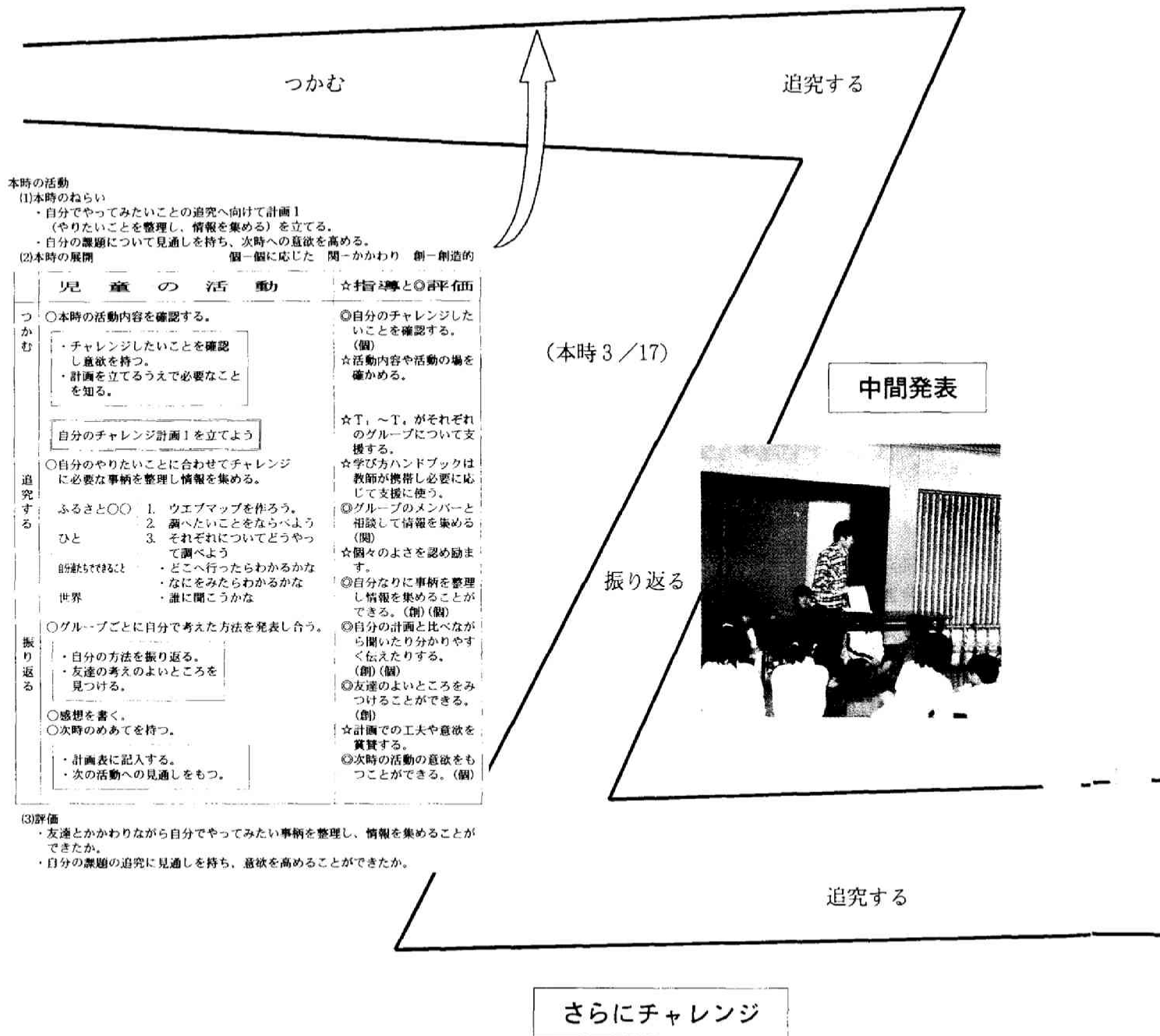
自分の学びを生活の中で生かしてみよう 1

5 実践記録

オリエンテーション

チャレンジ計画を立てよう

ファースト  
チャレンジ



〈振り返る〉

- 個々の活動の振り返りは毎時間行なう。活動の節目ごとに発表し合うことで、友達の学び方や考え方を生かす学び合いができる。振り返りを学びに生かしたものにするために「自分の考えと比べて聞く」という視点を押さえる。
- 自分の学び方を修正することによって、新たに課題の広がりや深まりがみられるようになった。新たな自分の発見で自信をもって課題追究に取り組むようになった。

〈課題をつかむ〉

- ウェブマップで自分のやりたいことや調べ方を整理して発想を広げていく。
- 初めに決めた課題や方法を友達との情報交換から得た学び方、調べ方を取り入れたものに修正、変更可能な時間を設ける。
- 5、6年混合グループ4～5名ほどで情報交換し合いながら課題作りを進める。

〈追究する〉

- 計画書を使って自分の次の活動の予定を考えて準備をする。
- 計画書、掲示板（個々の色別カード）で個々の学び方を互いに知り、それぞれの課題追究に生かすようにする。
- 個々の活動に合わせて人とかかわったり、体験したりする学び方ができるように支援する。
- 個々の課題追究に応えるのに複数のT・T、校内の教職員、保護者、ゲストティチャーの協力は欠かせないものである。
- 個々で学ぶ時間、友達とかかわりながら学ぶ時間をねらいにあわせて工夫していきたい。

自分の学びをプロセス！  
フリーストチャレンジ 計画書  
名月

日	活動したこと	次の活動予定 困ったこと、相談したいことなども
オリ エン テー ション	1 「かわりたい言葉」って... やってみよう 2 和泉のめずらしい生き物を調べたい。 和泉の生き物を調べたい。	マイアイデアを基かして自分の学びを深めよう 自分のアイデアをしよう
10/11	3 チャレンジ計画1を立てた。本・おかん川花を調べたい。	自分のチャレンジ計画のための調べ方を集める。計画を立てる。
10/12	4 チャレンジ計画2を立てた。カラートムにアンケートする	チャレンジ計画2を立てる。 調べるのに必要な物やじゅんぶる物を集めておく。
10/22	5 アンケートをとホ ら6年の友達	アンケートをとるための質問を考えておく 友達に聞く 町で見かけた生き物など
10/24	6 生き物をカナラでとる	場所に行って写真を撮る。 かんた川・アスチルリやうり寺。きふね神社
10/28	7 まとめる写真をはってせつ明を書いた。	カラい・ほいに生き物のいそがな所や生き物をとりたいなと思う紙にまとめる。(今日かなが柳)
10/31	8 アンケート・カメラで調	中間発表
11/1	9 カメラで生き物を書く。アスチルリのはななど...児童書の方も早す。本で調べたことも入れた。	

発表会

追究する

まとめ・表現

振り返る

より社会・地域への生活をめざす個々の取り組み



〈まとめる〉

- 課題として追究してきたことを下級生、保護者、地域の方々に伝えるために自分の学びに合わせて効果的な方法でまとめる。
- 発表会を行うことで、自分の学びをいろいろな人に自信を持って伝え、さらに、みんなに生きような追究にしよう意識を変えることができる。



6 他教科との関連

各教科・領域 地域 自然 交流 生活  
 地域へ向けての活動  
 経験からの興味・関心

国語  
 ◇目的にあわせた情報、資料の収集  
 ◇文章を整理して表す。  
 ◇事実と意見に分けて書く、話す。  
 ◆文章や話を理解し、考えをもつ。  
 ◆違いを比べ、共通点を見つける。  
 ☆考えを比べながらよりよい考えにしようとする態度  
 ☆気持ちや考えを進んで書いたり話したりする態度  
 ☆相手や目的に応じて表現を工夫する態度

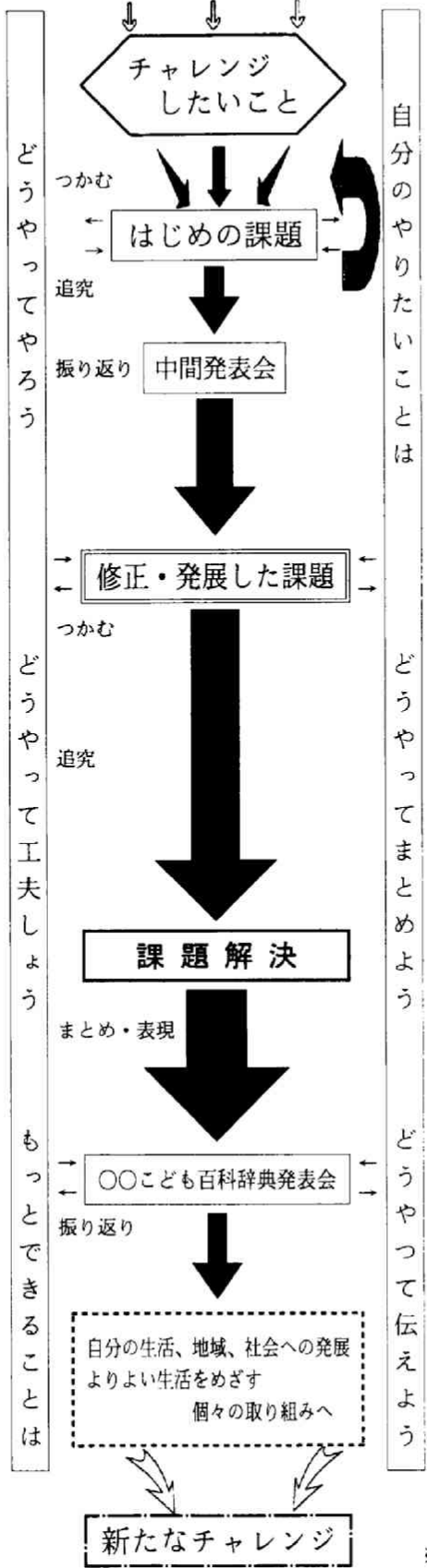
算数  
 ◇目的に応じた資料の整理、分類  
 ◇表やグラフの表し方  
 ◇測定や作図  
 ◆解決方法や結果の見通しをもつ。  
 ☆筋道を立てて考えたり説明したりしようとする態度  
 ☆学習してきたことを積み重ね、発展させていく態度

音楽  
 ◇豊かな感性  
 ◆歌唱、演奏  
 ◆音楽の特徴や多様性を感じ取る。  
 ☆音楽を生かして生活を明るくしようとする態度  
 ☆表現の工夫をしようとする態度

図工  
 ◇作品の味わい方  
 ◇表し方や見方を学ぶ。  
 ◇表現方法の工夫  
 ◇発表、交流  
 ◆作品を大切に作る心情  
 ◆対象の観察  
 ◆発想、構想  
 ☆表したいことや作りたいものを自分の表現方法で表そうとする態度  
 ☆進んで表現しようとする態度  
 ☆心豊かに生活を創造していこうとする態度

道徳  
 ◇夢や希望の実現への努力  
 ◇自分への問いかけ  
 ◇自分の体験と比較した表現  
 ◆多面的な考え  
 ◆共感的な考え  
 ◆人の行動や価値と自分自身を重ね合わせて考える。  
 ☆よりよく生きようとする態度  
 ☆自分自身の問題として深くかわらうとする態度

総合的な学習に生かせる各教科の基礎、基本の力  
 ◇ 学び方  
 ◆ 考え方  
 ☆ 創造的な取り組み



社会  
 ◇観察、調査、情報収集  
 ◇地図や資料の効果的な活用  
 ◇情報の受信、発信  
 ◆類似点や相違点の整理  
 ◆地域社会との関連  
 ◆広い視野からみた考え  
 ☆地域社会の一員としての自覚  
 ☆社会や環境に対する意識や態度  
 ☆世界の人々と共に生きていこうとする態度  
 ☆公正に判断する能力や態度

理科  
 ◇観察、実験、情報収集  
 ◇根拠の説明  
 ◆推論  
 ◆自分の考えをもつ。  
 ☆見通しや目的意識をもって進んで追究しようとする態度  
 ☆日常生活と関連づけ科学的に考える態度  
 ☆自然環境、生命を大切にする態度

体育  
 ◇動きの高まり、技能向上のために自ら課題を持つ。  
 ◆健康安全についての基礎的な内容の理解  
 ☆健康を保持増進し、体力を向上させ、楽しく明るい生活をしようとする態度

家庭  
 ◇習得した技術の活用  
 ◇目的に応じた作業計画の立案  
 ◇適切な材料の選択  
 ◆学習の生活化  
 ☆計画を立て、見通しをもって実践しようとする態度  
 ☆楽しさや完成の喜びを追究しようとする態度  
 ☆自分なりの工夫を生かそうとする態度

特別活動  
 ◇取材、アンケート  
 ◇適切、効果的な発表  
 ◇生き方や集団の一員としての態度や行動を地域の人から学ぶ。  
 ◆人間としての生き方についての自覚。  
 ◆社会奉仕の精神。  
 ☆集団や社会の一員としてよりよい生活を築こうとする自主的、実践的な態度  
 ☆問題の解決に向けて自主的に取り組もうとする態度  
 ☆集団に主体的にかかわろうとする態度  
 ☆友達と助け合いながら学習や生活をしようとする態度

※参考 多摩教育研究所研究資料



### Ⅲ 研究の成果と課題

#### 1 研究の成果

##### (1) 研究主題について

- ① かかわりを大切にする事で、互いに伝え合い、認め合うようになった。
  - 課題作りでは、児童が体験的な活動やゲストティチャーの話を聞いて交流したり、ブレインストーミングのように集団でイメージを広げたりして、身の周りの人や自然、社会などに目を向けた課題を作るようになった。
  - また、児童がお互いにどんな課題に取り組んでいるかを分かりやすくファイルし掲示したり、メールカードと称しての意見交換等により、情報を伝え合うことができるようにした。中間発表などの場を設定したことにより、お互いに認め合う姿が見られるようになった。
- ② 児童の意欲を高める工夫によって、学習活動をよりよいものにしていこうとする創造的な取り組みが見られた。
  - 児童は、各教科・領域の学習によって身につけた知識・技能などや、日常生活の中での経験などを生かし、自らの興味・関心をもとに課題を設定した。その時、繰り返し経験を積んでいくことによって、より具体的な計画を立てることができるようになっていった。
  - 「課題の追究」「まとめ」、さらには、「新しい課題の設定」の段階においては、ウェブマップの活用等を通じて、自らの知識・技能・経験を生かして学習活動を進めていった。このような活動が創造的な取り組みへとつながっていった。
  - 児童が学習活動を毎時や節目で振り返ることを通して、「このように変えたい」「もっと調べたい」等自分の取り組みをよりよいものにしていく意欲が見られた。

##### (2) 副主題「個に応じた指導の工夫」について

主題に迫るための手だてとして、個に応じた指導の工夫を5点に焦点化し、実践したことによって、それぞれに成果が見られた。

- ① 修正・発展できる課題作りで、自分の課題にゆとりをもたせることができた。
  - 地域のゲストティーチャーとの交流を児童共通の体験として興味・関心を持たせ、ウェビングで自分のやりたいことや調べ方を整理したことによって、発想を広げるのに役立った。
  - 「研究カード」を工夫し、動機（調べようと思った訳）を明らかにさせておくことによって指導者の支援に生かせ、また、本人の課題をはっきりさせることができた。
  - ゆとりある指導計画を立てることによって、自分の課題が途中からでも修正できるようになったり、具体的な追究活動へと発展させたりできるようになった。
- ② 学びの過程を明確にすることによって、学習の見通しがもて、計画が立てやすくなった。
  - 「研究カード」に学びの過程が明確に分かるように、学習の前後で自分の追究活動のスケジュール・方法が書き込めるようにし、児童は学習の見通しがもちやすくなった。
  - 中間発表会・まとめの発表会を学習計画に設定しておくこと、自分の学習活動の節目を意識し、見通しをもって取り組むことに役立った。
- ③ 体験活動や様々な学習形態を取り入れた学習の展開をすることにより学び方が広がった。
  - 実際に作る、味わう等、五感で感じ取る体験をしてみる。友達とのかかわりは、心が解放さ

れて、自由な発想が出やすくなる。友達の学びを参考にしてさらに発展していく。

- ④ カードの工夫、時間の設定等、振り返りの場を確実にもたせることによって、児童の追究活動が活発になった。
- 研究カードは、いつでも取り出して見られるように、クリアファイルとフラットファイルを組み合わせた物に挟み込んで掲示した。本人はもちろんのこと、友達の研究も自由に見られるようになっており、その感想や情報をカードに書き、貼っていくことで振り返りの参考になった。
  - 個々の活動の振り返りは毎時間行い、活動の節目ごとに発表し合うことで、友達の学び方や考え方を、自分の学びに生かすという学び合いができた。振り返りを学びに生かしたものにするために「自分の考えと比べて聞く」という視点を押さえさせると、よりよい振り返りとなることがわかった。
  - 調べたことを互いに情報交換し、自分ならば何をどのように生活の中に生かしていくかという発展につながり、自分の学び方を修正することによって新たに課題発見につながり、児童は徐々に自信を付けていった。
- ⑤ 人的・物的な環境を整備する等、学習環境を整えることで、総合的な学習の時間の活動が活発になった。
- 学年・専科教員によるTTの体制や保護者や地域の方の協力を得た体制を作ることで、子どもの学習が充実したものになった。
  - 子ども達の活動が効率的に進むように、図書室やパソコン室等、活動の空間、追究の対象、資料、材料等を整えることにより、課題追究活動がスムーズになり、児童の意欲が喚起された。

## 2 今後の課題

- (1) 総合的な学習の時間のねらいを明確にした単元の構成の工夫が必要である。
- 指導者側は、総合的な学習の時間のねらい・教科のねらいを明確におさえた単元を構成しないと、体験しておもしろかった、楽しかったで終わってしまうことになる。教科、特別活動等のねらいの違いを踏まえることによって、総合的な学習の時間の活動が焦点化される。
- (2) 指導者の様々な支援の工夫を図る必要がある。
- 児童一人一人が自由な発想を生かしつつ追究活動が活発に進められるように、一人一人に応じた教師の支援、協力授業や地域の方々の支援の在り方を工夫していく必要がある。
- (3) 今後は小学校と中学校の連携が求められる。
- 今後、総合的な学習の積み重ねがどう生きていくのか、地域を同じくする小学校と中学校の情報交換、連携が課題となろう。
- (4) 各教科等の基礎基本の内容と総合的な学習の時間との関連を年間を通して位置づけていく必要がある。